

献 辞

カッケンブッシュ知念寛子教授の研究者、教育者としての素晴らしさは履歴や研究業績の一覧表からだけではその全貌をうかがい知ることはできない。もちろんカッケンブッシュ教授の研究業績は履歴でも示されているように世界で一世を風靡したミシガン学派のフリーズやパイクの直接指導を受けられたところから出発しており言語と言語教育研究の本格派であることに間違いはない。

しかし教授が長い年月にわたって築き上げられてきた歴史はアメリカでの研究の成果をそのまま拡張していくということではなく、教授の心の底にある日本的なやさしさや価値観を限りなく生かしたものとなっている。

そのことは教授の教育活動や大学の行政事業の中でも遺憾なく発揮された。学生たちの教授に対する評価はこの大学においてだけではなくお勤めになったどの大学でもきわめて高いものであったし、本学での国際交流部長としてのご活躍はまさに賞賛に値するものであった。教授が部長を担当しておられた期間には大学間交流協定を結んだ海外の大学の数も飛躍的に増えた。この実績が可能になったのは教授の長い年月にわたるアメリカ、オーストラリア、日本でのご活躍の成果が実を結んだもの、また教授の卓越した交渉力によるものが大きかったと言える。

多彩なカッケンブッシュ教授のご経歴の中でも名古屋外国語大学での就任期間は最も長く十年に及んだ。その間の教授の大学へのご貢献も含めこのたび名誉教授の称号が贈られた。

これからも先生は名古屋外国語大学の教授のお一人であるということで折に触れ来学してくださることを願っており、健康にはくれぐれもご注意ください、いつまでもお元気で、いままで忙しくておできにならなかった手間のかかる研究活動をじっくり展開なさることを心からお祈りする。

平成19年 3月31日

学長 水谷 修